

在宅医療に関する市民意識調査 結果報告書【概要版】

大津市保健所地域医療政策課

1

説明内容（目次）

- 1 調査概要
- 2 回答率
- 3 回答者の内訳
- 4 在宅医療について
 - (1) 在宅医療の認知度
 - (2) 在宅医療についての情報入手方法
 - (3) 在宅医療の利用意向
 - (4) 自宅で最期まで過ごすことの希望と実現性
 - (5) 最期に在宅療養を希望しない、難しいと思う理由
- 5 人生会議（ACP）について
 - (1) 人生会議（ACP）の認知度
 - (2) 人生の最終段階についての話し合いの有無
 - (3) 人生の最終段階について話し合ったことがない理由
 - (4) 看取り時の希望

1 調査概要

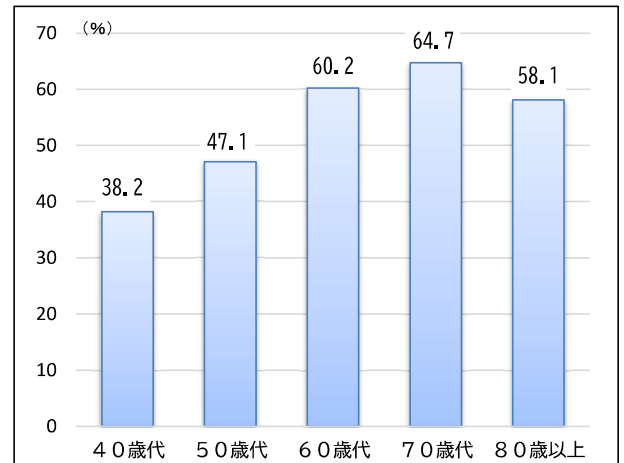
調査目的	本調査は、在宅医療や在宅看取り等に関する意識や意向などを把握することにより、今後の在宅医療提供体制の充実を図るための基礎資料とすることを目的とする。
対象者	大津市在住の40歳以上の市民 3,000人 ※10歳毎で人口構成割合に応じて無作為抽出
調査方法	郵送で配布し、郵送で回収またはWebフォームから回答
調査期間	令和7年9月5日（金）～9月26日（金）
回収結果	有効回収数 1,600人（無効票 9件） 有効回収率 53.5%
その他	小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100%にならない場合があります。

2 回答率

- 対象者は10歳毎で人口構成割合に応じて無作為抽出。
- 回答率を年齢別で比較すると、60歳以上で高くなっている。
また、ブロック別では、中部・中南部・東部の順で高い回答率であった。

(1) 年齢別

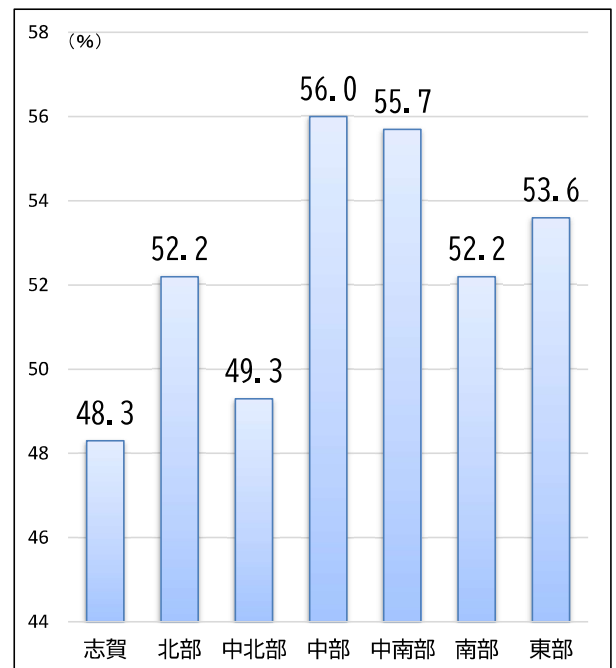
	回答数 (人)	回答率 (%)	発送数 (人)
40歳代	237	38.2	620
50歳代	343	47.1	728
60歳代	353	60.2	586
70歳代	396	64.7	612
80歳以上	264	58.1	454
無回答	7		
合計	1,600		3,000



5

(2) ブロック別

	回答数 (人)	回答率 (%)	発送数 (人)	【参考】 R7.7.1人口 (人)
志賀	100	48.3	207	20,729
北部	226	52.2	433	48,890
中北部	204	49.3	414	49,785
中部	265	56.0	474	52,957
中南部	297	55.7	533	60,652
南部	165	52.2	316	33,249
東部	334	53.6	623	77,211
無回答	9			
合計	1,600		3,000	343,473



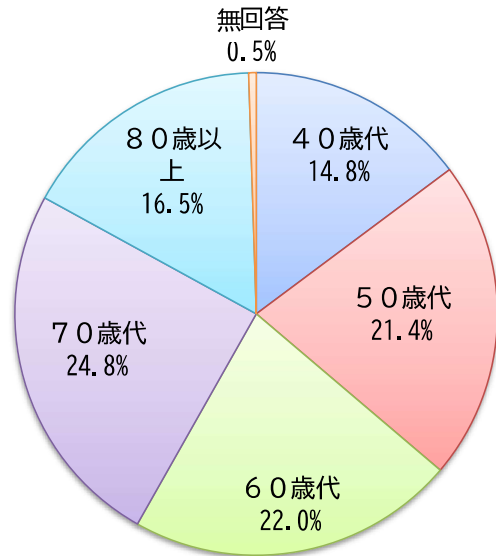
6

3 回答者の内訳

■ 回答者の内訳は、年代別では70歳代の回答者の割合が高く、ブロック別では東部・中南部の回答者の割合が高い。

(1) 年齢別

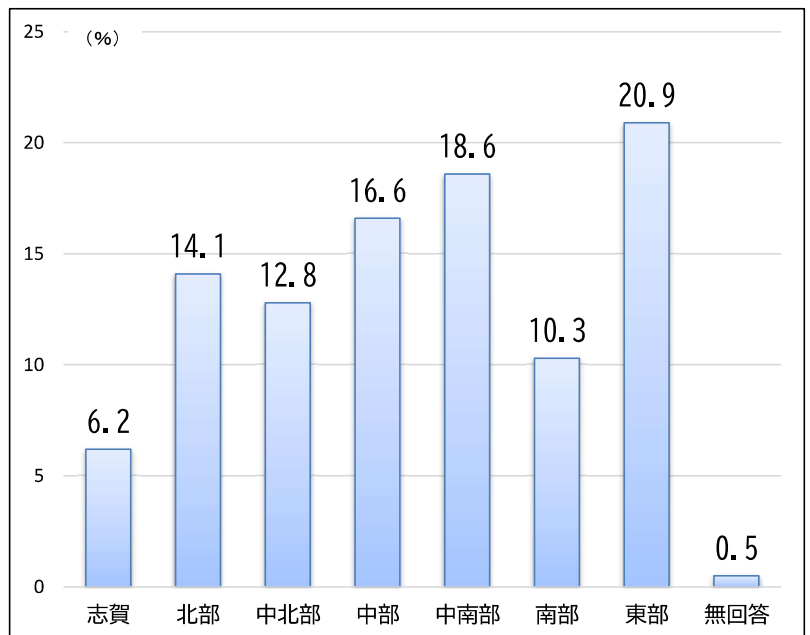
	回答数 (人)	割合 (%)
40歳代	237	14.8
50歳代	343	21.4
60歳代	353	22.0
70歳代	396	24.8
80歳以上	264	16.5
無回答	7	0.5
合計	1,600	100



7

(2) ブロック別

	回答数 (人)	割合 (%)
志賀	100	6.2
北部	226	14.1
中北部	204	12.8
中部	265	16.6
中南部	297	18.6
南部	165	10.3
東部	334	20.9
無回答	9	0.5
合計	1,600	100



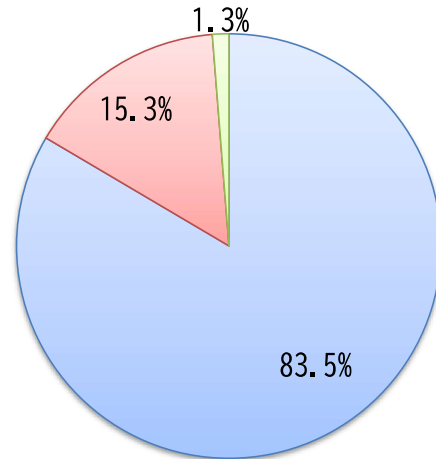
8

4 在宅医療について

(1)-1 在宅医療の認知度

■「在宅医療」という方法について、「知っている」と答えた割合が8割を超えた。

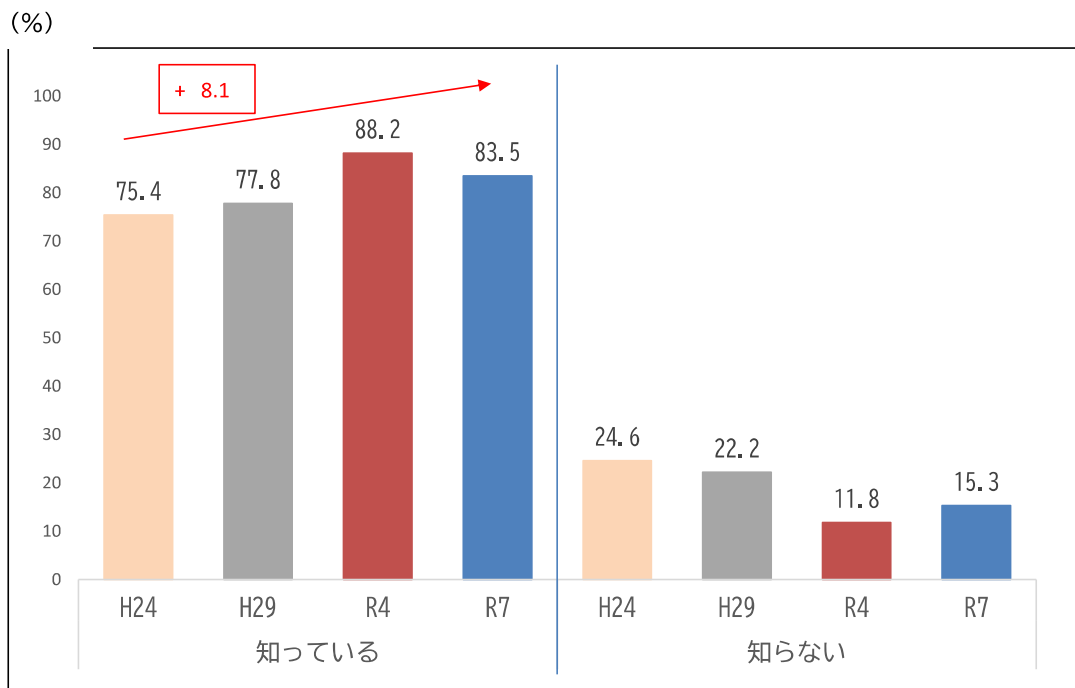
	回答数 (人)	割合(%)
知っている	1336	83.5
知らない	244	15.3
無回答	20	1.3



■知っている ■知らない ■無回答

(1) -2 在宅医療の認知度（経年）

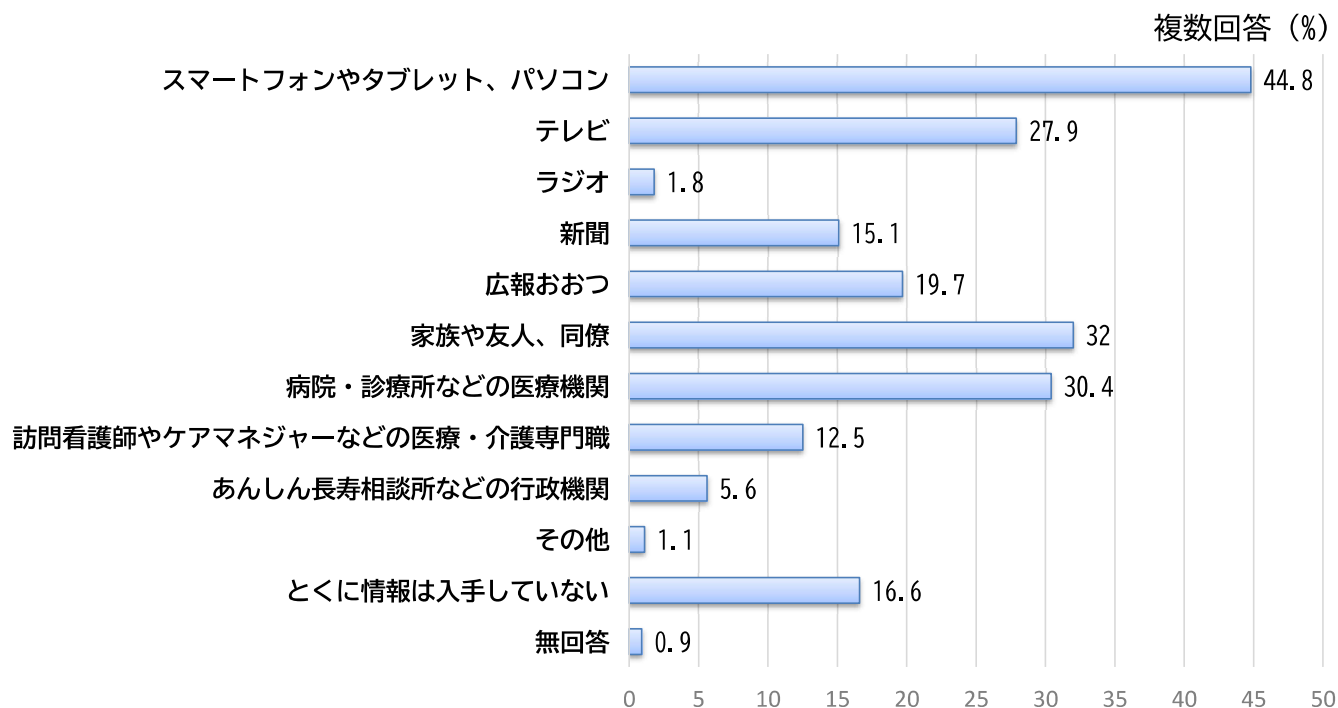
■在宅医療について「知っている」割合は、平成24年度調査から8.1ポイント増加している。



(2)在宅医療についての情報入手方法

※令和7年新規調査項目

■スマートフォンやタブレット等インターネット機器で情報を入手している方が最も多い。

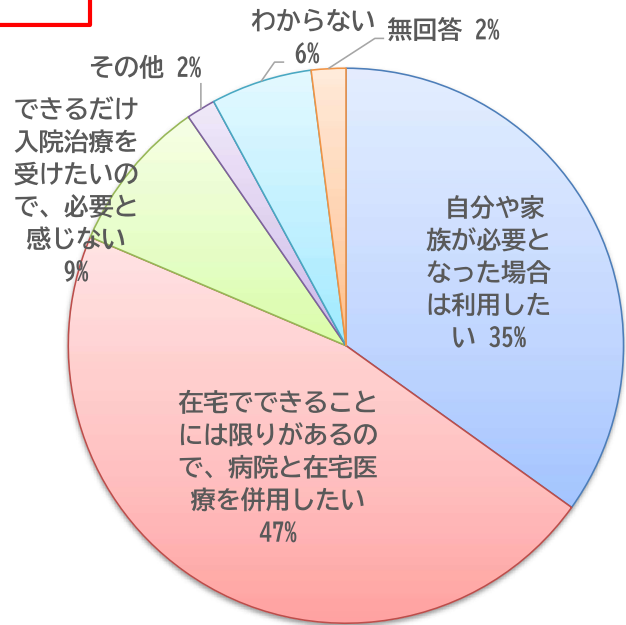


(3)-1 在宅医療の利用意向

■ 病院と在宅医療の併用を含めると、約8割が「在宅医療」の利用を希望している。

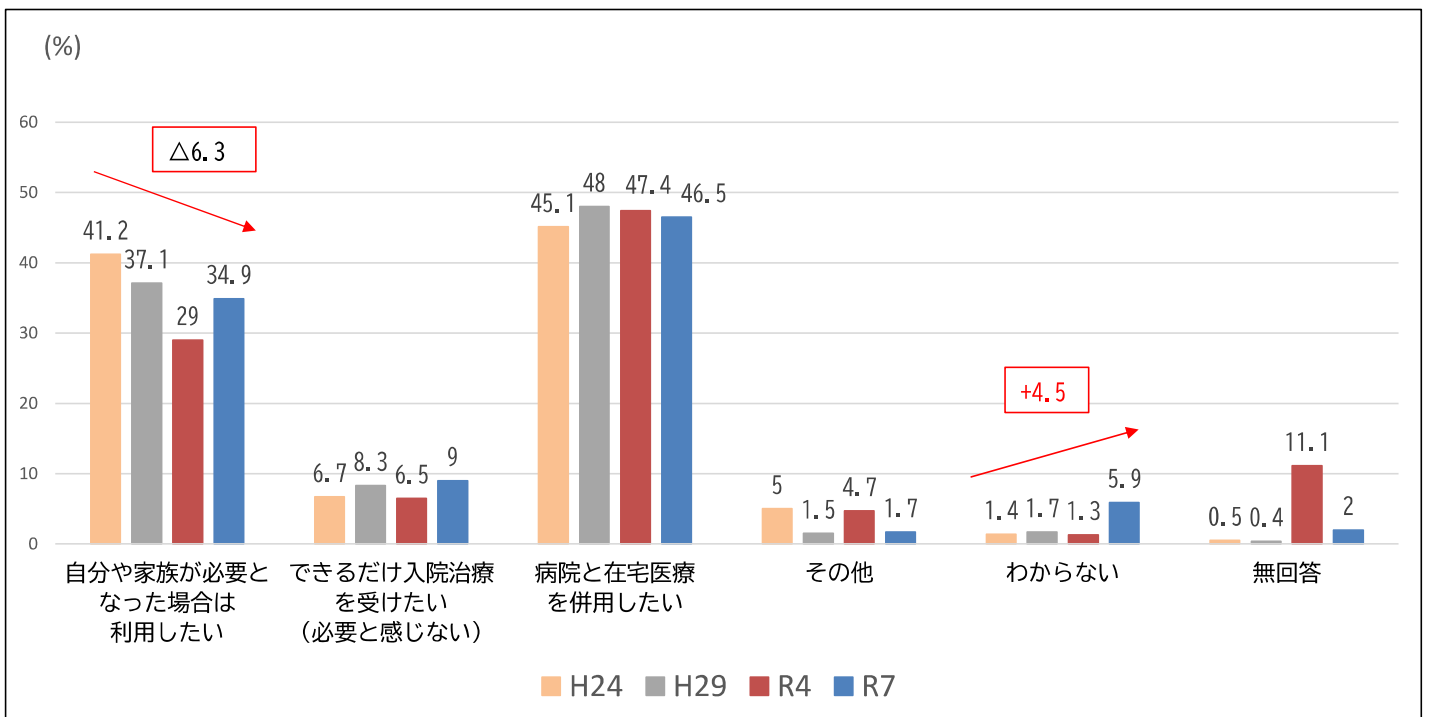
	回答数 (人)	割合 (%)
自分や家族が必要となった場合は利用したい	559	34.9
在宅でできることには限りがあるので、病院と在宅医療を併用したい	744	46.5
できるだけ入院治療を受けたいので、必要と感じない	144	9.0
その他	27	1.7
わからない	94	5.9
無回答	32	2.0

81.4%



(3)-2 在宅医療の利用意向 (経年)

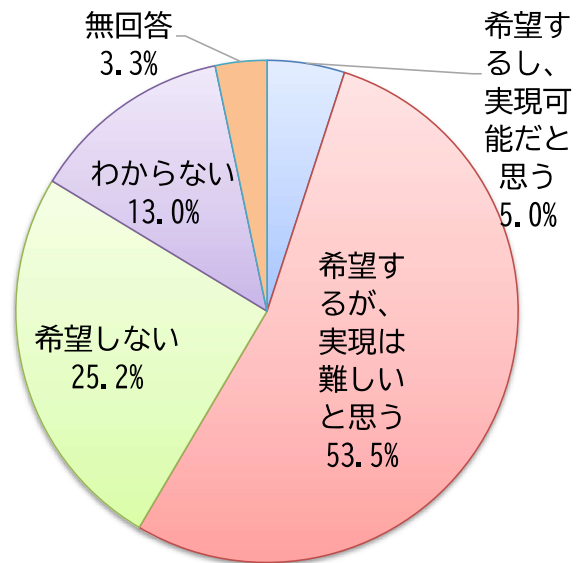
■ 「病院と在宅医療を併用したい」が最も多く、経年みるとほぼ横ばいである。
 ■ 平成24年度調査と比較して「必要となった場合は利用したい」が、6.3ポイント減少した。
 ■ 平成24年度調査と比較して「わからない」が4.5ポイント増加した。



(4)-1 自宅で最期まで過ごすことの希望と実現性

■「希望するが実現は難しいと思う」と答えた割合が最も高く、半数を超えた。

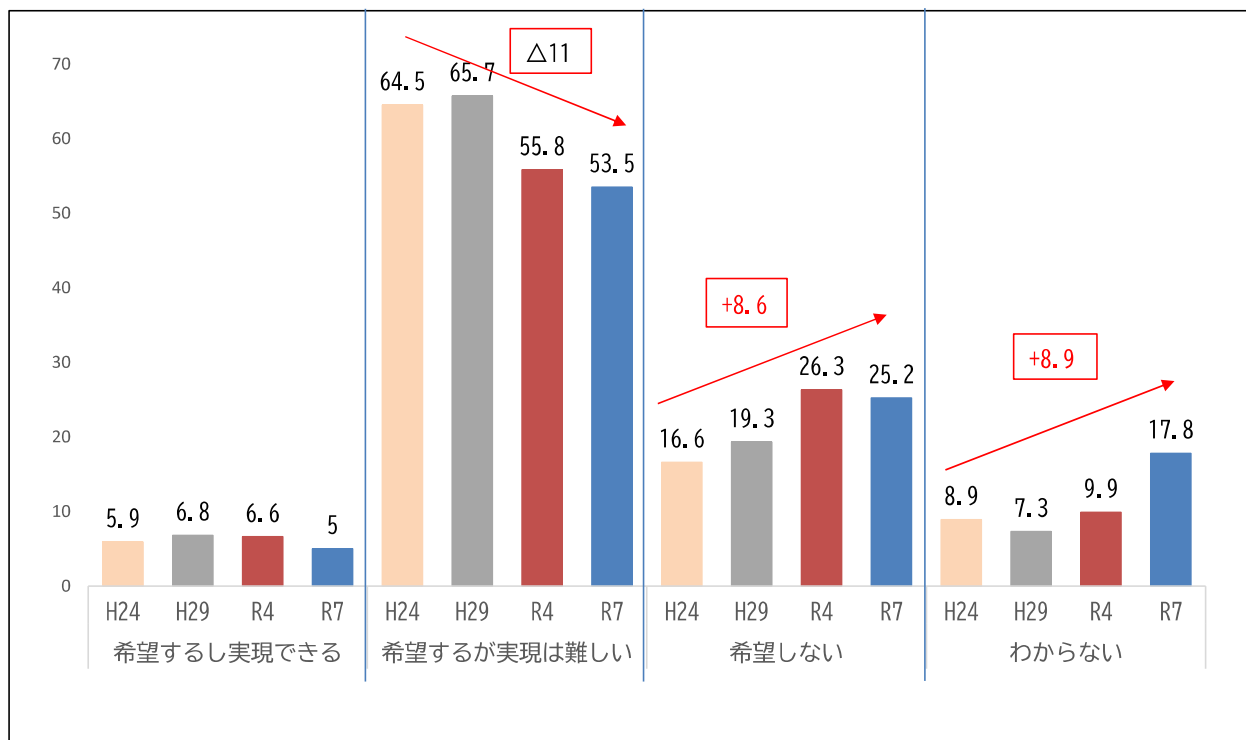
	回答数(人)	割合(%)
希望するし 実現可能	80	5.0
希望するが 実現不可	856	53.5
希望しない	403	25.2
わからない	208	13.0
無回答	53	3.3



15

(4)-2 自宅で最期まで過ごすことの希望と実現性（経年）

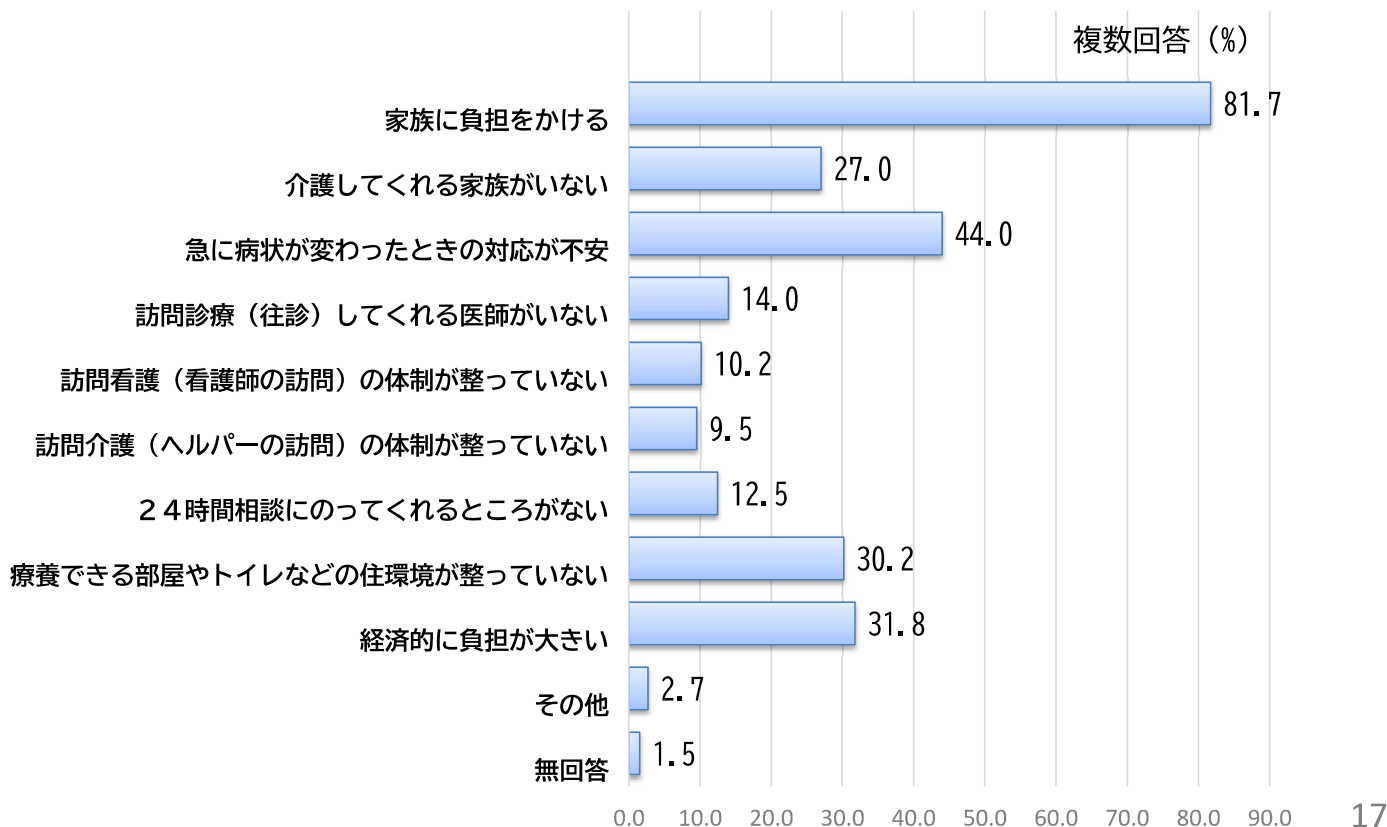
■平成24年度調査と比較して、自宅で最期まで療養することを「希望するが実現は難しい」と回答した人の割合は11ポイント減少している一方で、分からないと答えた人が増加している。



16

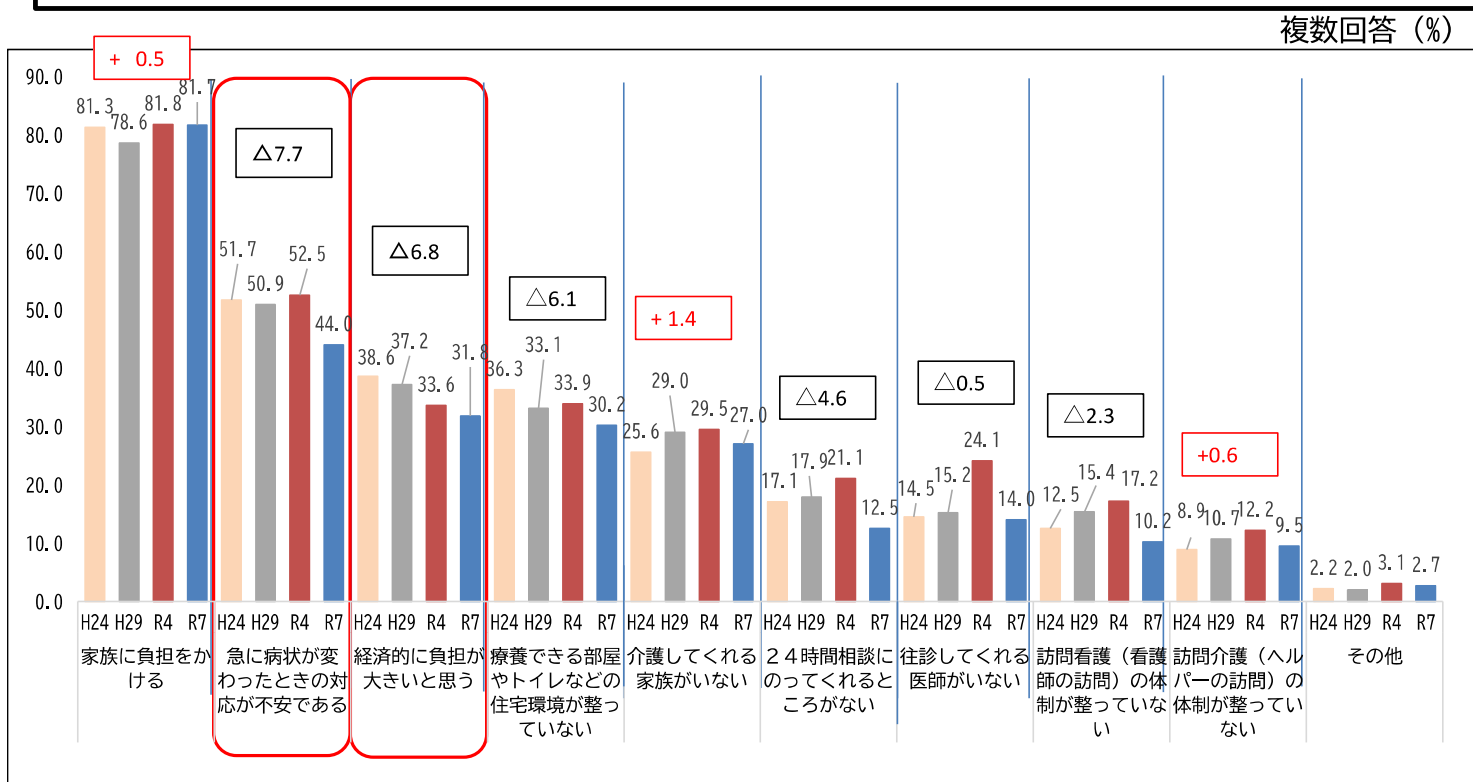
(5)-1 最期に在宅療養を希望しない、難しいと思う理由

- 「家族に負担をかける」と答えた割合が最も高く8割を超えた。
- 次いで「急に病状が変わったときの対応が不安」と答えた割合が高かった。



(5)-2 最期に在宅療養を希望しない、難しいと思う理由 (経年)

- 自宅で最期まで療養することを「実現が難しい」「希望しない」理由として、「急に病状が変わったときの対応が不安」「経済的に負担が大きい」を理由にしている割合が減っている。



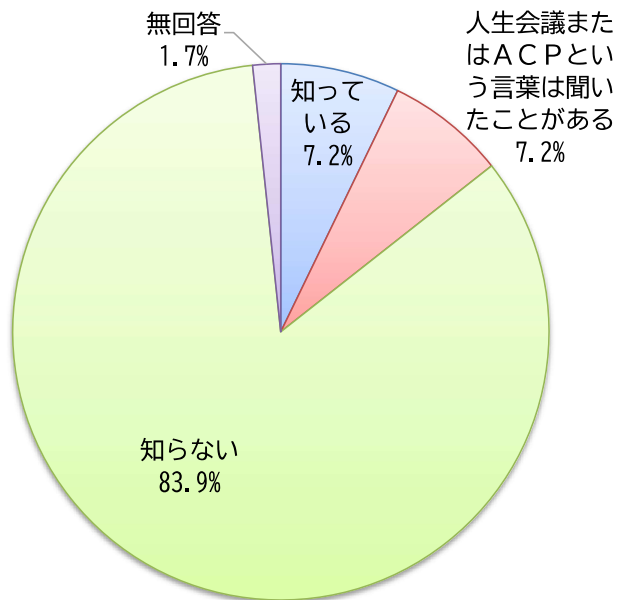
5 人生会議（ACP）について

(1) 人生会議(ACP)の認知度

※令和7年新規調査項目

■ 8割以上が、人生会議（ACP）について知らないと答えている。

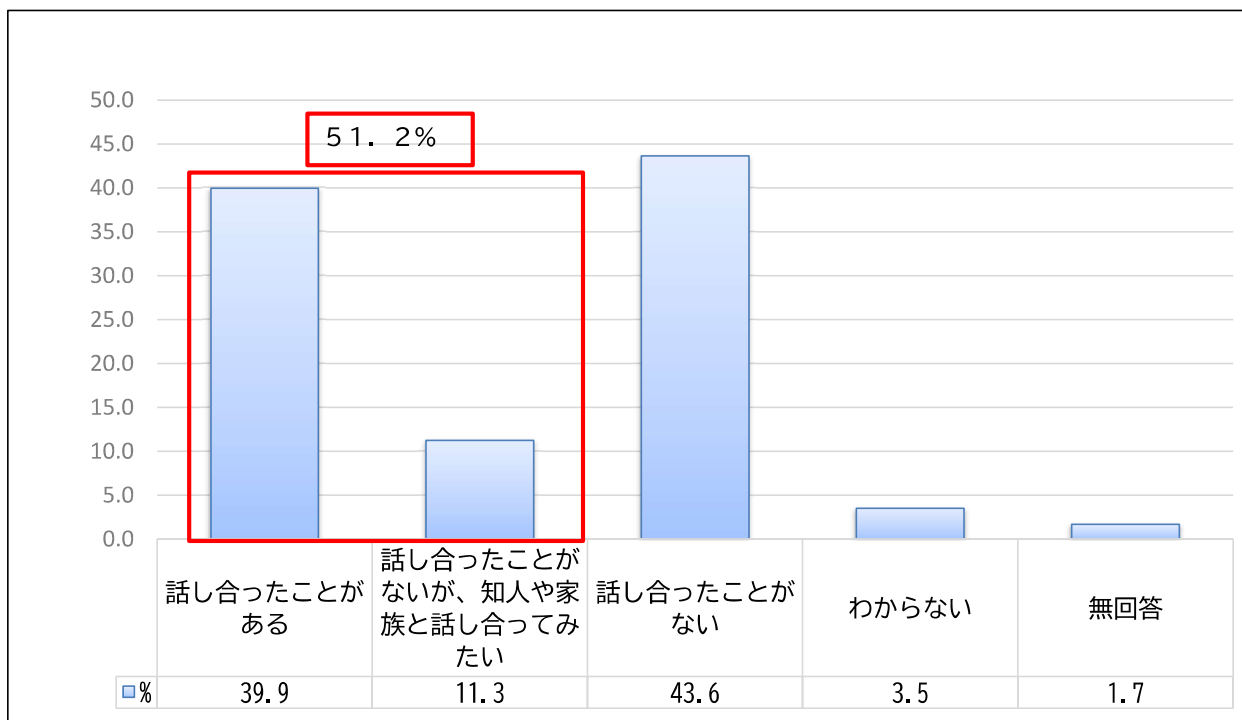
	回答数(人)	割合(%)
知っている	115	7.2
聞いたことがある	115	7.2
知らない	1343	83.9
無回答	27	1.7



(2) 人生の最終段階についての話し合いの有無

※令和7年新規調査項目

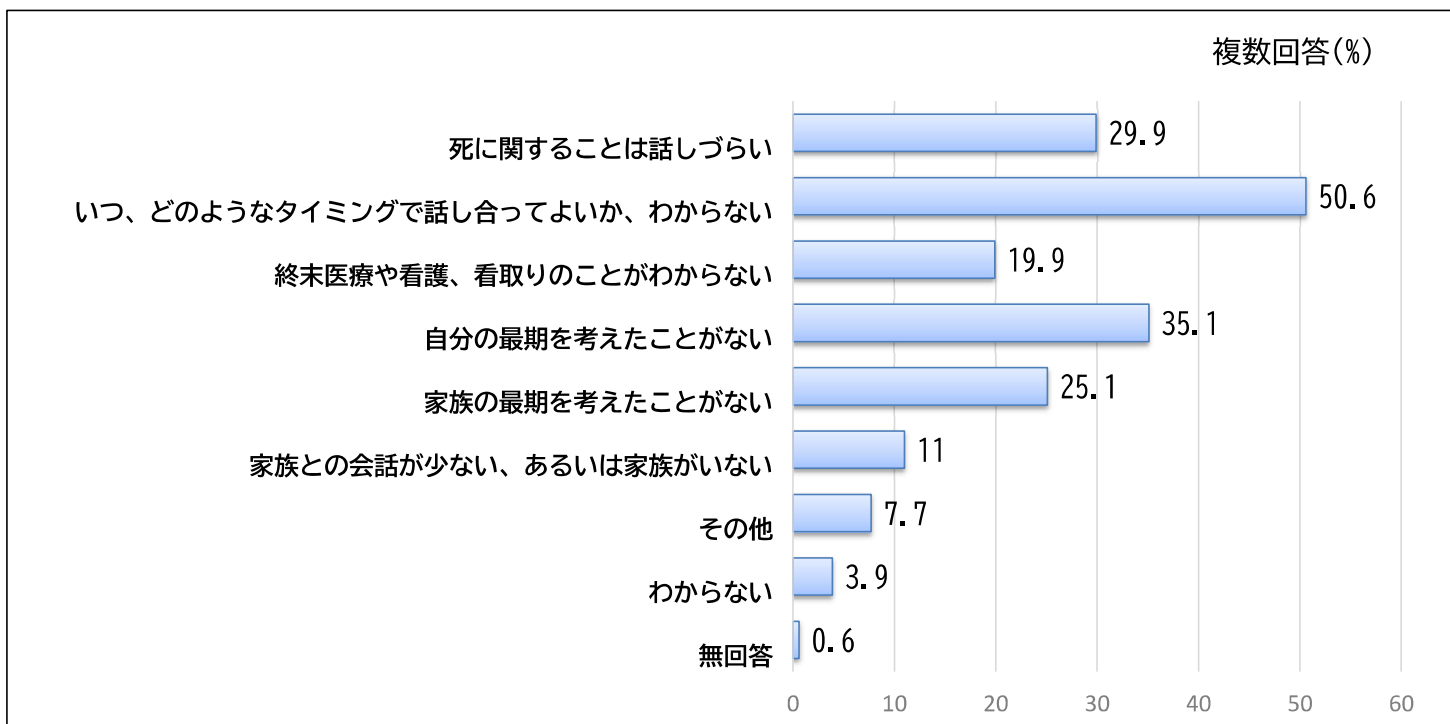
■ 約半数が「話し合ったことがある」「話し合ってみよう」と回答している。



(3) 人生の最終段階について、話し合ったことがない理由

※令和7年新規調査項目

■ 人生の最終段階について話し合ったことがない人に、その理由を聞いたところ、「いつ、どのようなタイミングで話し合っただよいか、わからない」が50.6%と最も多く、次いで「自分の最期を考えたことがない」が35.1%、「死に関することは話しづらい」が29.9%となっている。

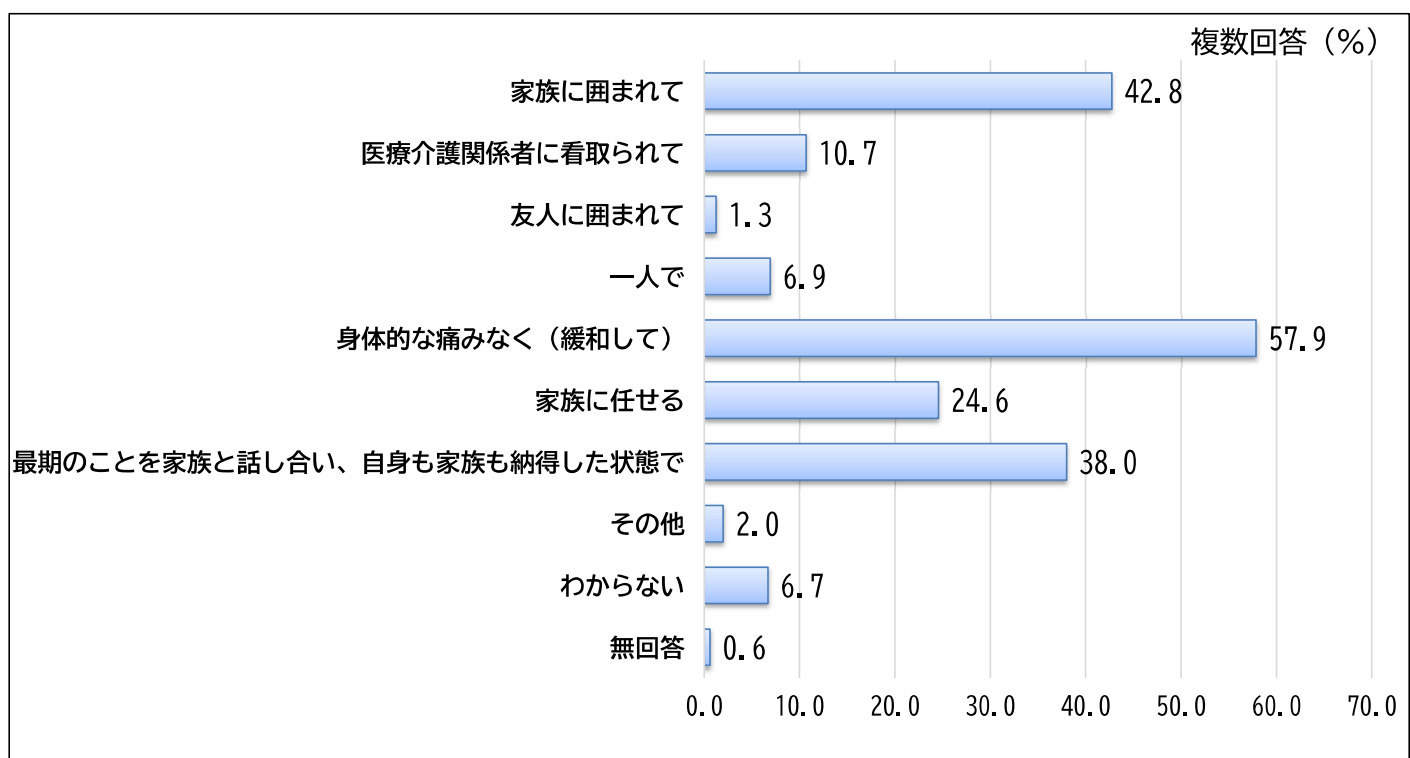


21

(4) 看取り時の希望

※令和7年新規調査項目

■ 約6割が「身体的な痛みを緩和したい」と思っている。次いで「家族に囲まれて」を希望している。
 ■ 約4割が最期のことを話し合い、自身も家族も納得した状態になることを希望している。



22